



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	早期舌扁平上皮癌における頸部リンパ節後発転移・局所再発に関連する因子の臨床病理学的検討〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	長, 太一
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(歯学)
Dissertation Number	甲第12164号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62198
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Taichi_Cho_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（歯学） 氏 名 長 太一

審査担当者	主査	教授	鄭 漢忠
	副査	教授	北川善政
	副査	教授	進藤正信

学位論文題名

早期舌扁平上皮癌における頸部リンパ節後発転移・局所再発に関連する
因子の臨床病理学的検討

審査は、審査担当者全員出席のもと、はじめに申請者より提出論文の概要の説明が行われ、審査担当者が提出論文の内容および関連した学問分野について口頭により試問する形で行われた。審査を行った論文の概要は以下の通りである。

本研究の目的は舌扁平上皮癌早期症例の手術標本を臨床病理学的に検索し、その後の局所再発と頸部リンパ節後発転移とに関連性をもつ因子を明らかにすることである。対象は1988年から2012年までの25年間に北海道大学病院口腔外科で根治切除を行ったStage 1, Stage 2 舌扁平上皮癌症例の中で病理学的に検索が可能であった81例とした。摘出物の腫瘍組織と腫瘍に隣接する粘膜上皮を病理学的に検索し、腫瘍の浸潤様式を膨張型と浸潤型、隣接上皮は異型の見られないものと異型の見られたものとし、異型の見られたものは頭頸部癌取り扱い規約に準じてLow grade dysplasiaとHigh grade dysplasiaに分類した。さらにp53, Ki-67, ALDH1, Podoplaninに対する免疫染色を行い、腫瘍細胞における陽性細胞率の計測と、腫瘍に隣接する上皮におけるp53, Ki-67, Podoplanin, ALDH1 陽性細胞率の計測とPodoplanin 陽性細胞の分布について検討した。対象とした81例中、10例に局所再発、20例に頸部リンパ節後発転移を認めた。頸部リンパ節後発転移をきたした症例では、腫瘍が浸潤性増殖をしめすものとPodoplanin 陽性細胞比率の高い症例で有意の相関を認めた。再発症例では細胞異型の程度とPodoplaninの陽性細胞比率、発現様式に有意の相関を認め、さらに細胞異型が軽度なものでもPodoplanin 発現と再発に有意の差を認めた。

論文審査にあたっては、申請者による学位論文要旨についての説明後、担当者により研究内容および関連事項についての質問を行った。主な質問事項は、1) 後発転移例には再建のために便宜的頸部郭清術を行った結果、転移を認めたものを含んでいるか？ 2) 後発転移ならびに局所再発の検討において、具体的には切除標本のどの部位をみているのか？ 3) 局所再発では Podoplanin の分布様式をスコア化して検討しているが、後発転移ではスコア化して検討していないのはなぜか？ 4) 腫瘍の後発転移、局所再発と P53, Ki-67 陽性との間に相関がみられなかったことに対する考察は？ 5) 他部位の扁平上皮癌において Podoplanin 陽性の意義はどのように報告されているのか？ 6) Podoplanin の score が高い部位は HE 染色ではどのように見えるのか？ 7) Podoplanin を用いた血清学的診断は行われているか？ 8) 対象を舌がんに限定した理由は？

等であった。これらの質問に対して申請者から適切かつ明快な回答および説明が得られ、研究の立案と遂行ならびに結果の収集とその評価について、申請者が十分な能力を有していることが確認された。

本研究は局所再発や頸部後発転移に Podoplanin 発現が関与していることを示唆したものとして意義深いものであることが高く評価された。申請者は、関連分野にも幅広い学識を有し発展的研究にも意欲的であり、今後の研究についての将来性も期待される。本研究業績は口腔がんの局所再発ならびに頸部後発転移の予測ならびにメカニズムの解明という点においても寄与すること大であり、博士（歯学）の学位に値するものと認められた。